

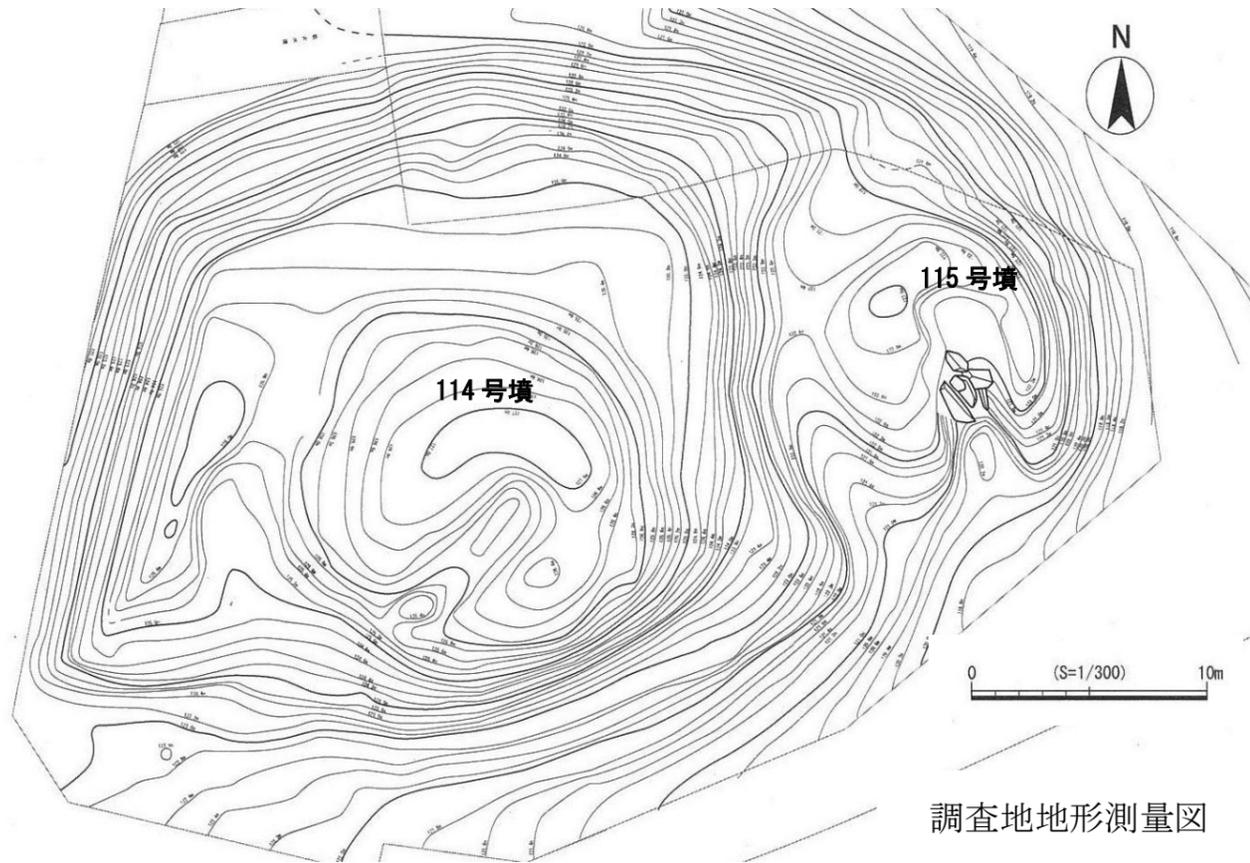
【曼陀羅山古墳群について】

曼陀羅山古墳群は、大津市緑町など曼陀羅山を中心に分布する古墳群です。現在、曼陀羅山山頂に所在する和邇大塚山古墳をはじめ、全部で117基が確認されています。和邇大塚山古墳は古墳時代前期の前方後円墳で、この他は全て古墳時代後期の円墳です。本古墳群は、真野川をはさんで対岸に位置する春日山古墳群とともに、真野・堅田地域を代表する古墳群の一つです。

平成25・26年度には真野北小学校の北側で発掘調査を実施しました。この調査は、横穴式石室を主体部にもつ円墳5基の調査を行いました。各石室から須恵器のほか、鉄刀・鉄剣・鉄鏃といった鉄製品、水晶製切子玉、ガラス玉などの玉類が出土しています。また、この調査では横穴式石室の解体を行い、石室の構築方法についてのデータも得られました。

【今回の調査内容】

- ・古墳時代後期（6世紀後半）の横穴式石室2基（114号墳・115号墳）を検出しました。それぞれ横穴式石室の残存状況は良好。
- ・築造順序としては、114号墳→115号墳の順番かと見られます。
- ・114号墳では、羨道部で多くの遺物が出土しました。
- ・115号墳で出土した刀の鐔は大津市内ではじめてのものです。
- ・平成25・26年度に調査したものより、後のものになると考えられます。古墳群全体を見たときに、どのような順序で場所を決めていったのか、考えていく資料となるものです。
- ・中世に石室内に入っています。周辺での土地利用についても見ていくことができると考えられます。

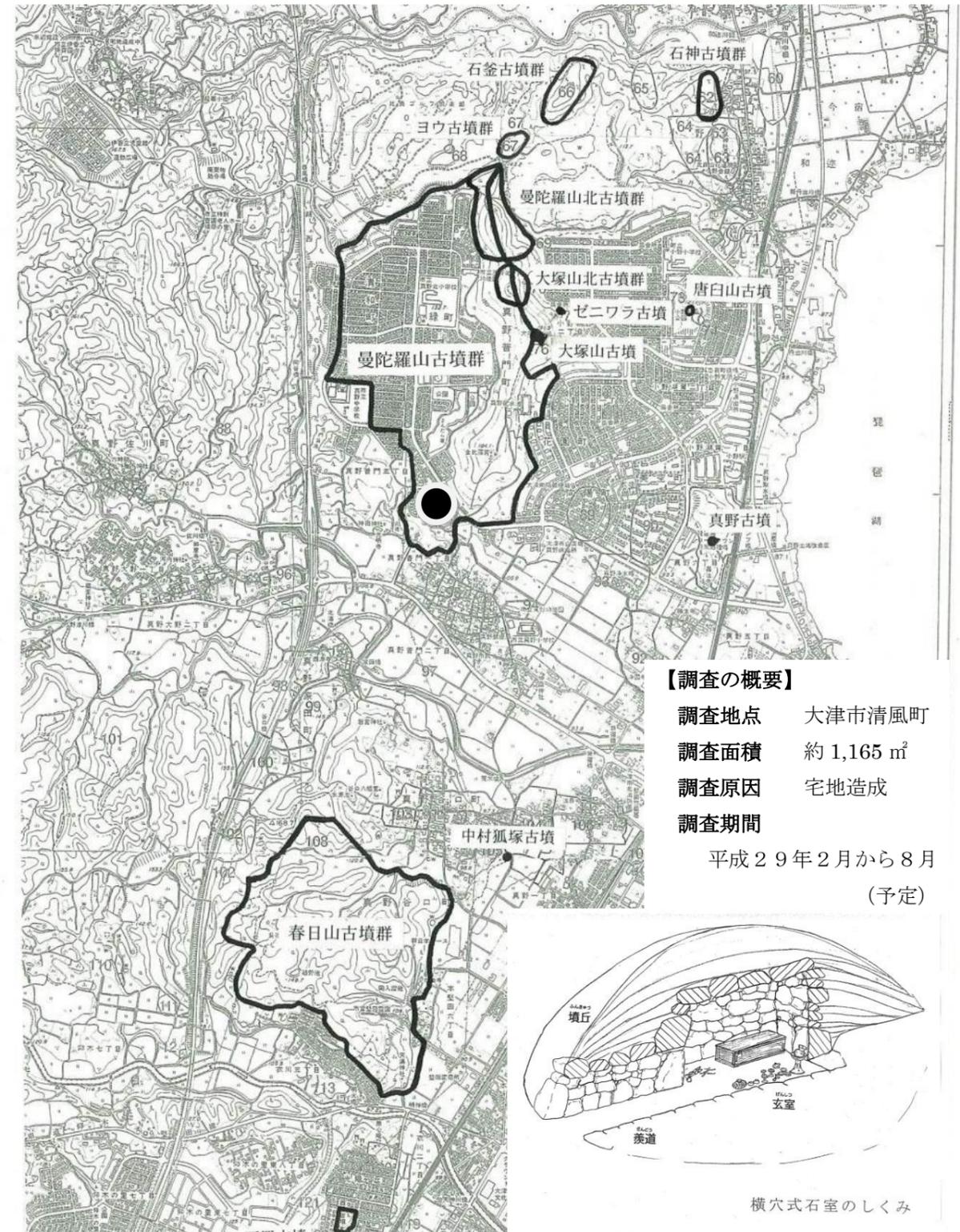


調査地地形測量図

(掘削前)

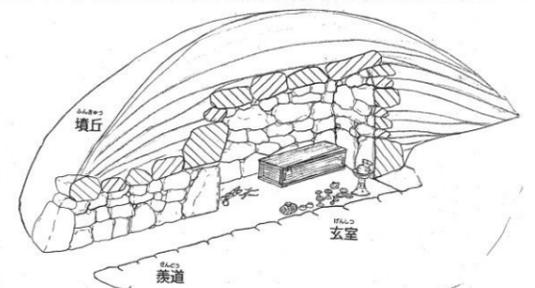
まんだらやま  
曼陀羅山古墳群発掘調査現地説明会資料

大津市教育委員会文化財保護課



【調査の概要】

調査地点 大津市清風町  
 調査面積 約1,165㎡  
 調査原因 宅地造成  
 調査期間 平成29年2月から8月  
 (予定)



横穴式石室のしくみ

曼陀羅山古墳群と周辺の古墳群 (●が今回の調査地点)

【114号墳】

墳形：円墳（径 20m）

主体部：横穴式石室（右片袖式）

規模 全長 8.4m

玄室部 長さ 3.6m 幅 1.7m 残存高 1.9m

羨道部 長さ 4.8m 幅（玄門部）0.7m （その他）1.0m

出土遺物：土器類 須恵器（杯・高杯・壺・ハソウ）

その他 鉄製品（刀子） 耳環

時期：古墳時代後期

その他：閉塞石（石室を閉じる為の石）を検出。羨道の最も玄室よりの部分で多くの遺物が出土。この遺物よりも外に閉塞石を設置しています。

また、玄室の右側壁および袖石が内側に押されています。



石室（南から）



羨道部遺物出土状況



閉塞石検出状況



石室（北から）

【115号墳】

墳形：円墳（径 15m）

主体部：横穴式石室（両袖式）

規模 全長 6.9m

玄室部 長さ 3.7m 幅 2.1m 残存高 2.3m

羨道部 長さ 3.2m 幅 1.1m

附属施設：敷石 排水溝

出土遺物：土器類 須恵器（高杯・杯）

その他 鉄製品（鐺・鉄鏝） 耳環

時期：古墳時代後期

その他：敷石直上で須恵器の杯が出土。また左袖部で土器類がまとまって、右袖部より鉄鏝が出土しました。さらに石室内で、敷石より 10cm 程度高いあたり（土砂が堆積して）で、中世とみられる土師器皿の完形品が出土。古墳時代後期に築造・埋葬後、後の時期の人が石室内を利用していったようである。



右側壁



奥壁



左側壁



奥壁左側土師器皿出土状況



玄室床面



奥壁左側敷石直上遺物出土状況



玄門部



左袖部遺物出土状況